

令和 3 年度第3回社会教育委員の会（書面開催）会議録

議事（1）令和3年度瑞穂市の主な生涯学習事業について（意見聴取）

井深委員長	<p>令和3年度の事業もコロナ禍で中止になったものが多く、残念であった。今後もやむなく中止せざるを得ない場合はあるだろう。しかしすぐに中止を考えるのではなく、コロナ禍でも開催できる方法を最大限模索することが大切である。（時期・場所・内容の変更、さらにオンライン開催）令和4年度は是非工夫してほしい。</p> <p>家庭・学校・地域・各団体が一体となって青少年健全育成をめざすまちづくりでは、あいさつ運動を通して効果が出ている。残念だったのは、毎年位置づいていた「ラジオ体操」の実施が地区によって足並みが乱れたことである。また「読書のまちづくり」では、まだあいさつのように市民に認知されていない。いかにして市民に知ってもらうかが課題であり、自治会や市民会議の団体に協力してもらうことも大切になってくる。</p> <p>ウォーキングコースの作成はとてもよい。瑞穂市にも自然豊かな場所があることが再認識できる。是非、全戸配布してもらいたい。</p>
山本委員	<p>コロナ禍でありながら市民自主講座や瑞穂大学の各学部が工夫をこらして開催されていることに事務局の努力を感じます。会場参加型からオンラインを取り入れることで、自宅で研修に参加できる方法も今後必要になると思います。</p>
上野委員	<p>大義名分のもと事業を中止するのは簡単であるが、長引くコロナ禍で、新しい方向を見付けていく必要がある。</p>
長屋委員	<p>コロナ禍で多くの行事が中止になって残念でしたが、その中でも開催できた行事があったのは良かった。図書館の企画展とネオクラシックコンサートに参加させていただき、良かったです。</p>
松野委員	<p>コロナ禍で事業が思うように実施できなかったのは仕方がないと思う。ただこれから季節に関係なく変異株が発生することは続くと思われる。こうした状態でもできる活動を模索するしかない。</p>
宇野委員	<p>コロナ禍でも中止までする必要がないのではないかと思われる事業がありました。例えば、脳力活性学部などは工夫すれば実施できると思いました。他市では講演や落語は中止になっていなかったため、中止にする基準を市民にもわかりやすく説明してほしいと思いました。</p>

<事務局より>

- ・コロナ禍でも開催できる方法を最大限模索し、事業の実施方法を検討していきます。
- ・「市民ラジオ体操の日」については、来年度の青少年育成市民会議運営委員会での実施の可否を決定します。

議事（２）ネオクラシックコンサートに関わる意見書について（意見聴取）

井 深 委 員 長	<p>今年度初めて鑑賞させていただいた。ドヴォルザークのチェロ協奏曲「新世界」という聴きなれた曲であったこともあり、すごく感動したコンサートであった。チェロ奏者も司会を兼ねた指揮者も大変すばらしかった。私の周りの人たちの評判もすこぶる良かったように感じた。ただ、資料にもあるように参観者のほとんどが60歳以上の高齢者であった。「健幸都市みずほ」を掲げる本市にとって、小・中・高校生を含めた若年層が少ないのが課題である。そこで、以下の提案をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサートの宣伝をする。（小中学校を通して） ・若年層にも馴染みのある曲を演奏する。 ・事前に各学校での出前授業を行い、クラシックの魅力を伝え、コンサートへの興味をもたせる。 ・中学校の吹奏楽部との合同演奏を入れる。 ・オーケストラに合わせて、みずほレインボー合唱団が歌う。 <p>演奏団体を岐阜県交響楽団だけに固定せず、上記の内容を考慮して演奏団体を選んでいくと良い。もちろん岐阜県交響楽団も含まれる。いずれにせよ、市民が「気軽にクラシック音楽を楽しむ」「クラシック音楽を知る」「クラシック音楽が好きになる」魅力あるネオクラシックコンサートにしたい。</p>
山 本 委 員	<p>安価で本物の音楽に触れることができる貴重な機会だと思います。会場の人数制限はあるものの、演奏側と聴き手の一体感を感じることができました。来年度、声楽家が小中学校を訪問するのはとてもすばらしい企画だと思います。</p>
上 野 委 員	<p>入場者336人中、アンケート提出280人に関心の高さを感じる。入場者のうち60%が60歳以上のかた。「健幸都市みずほ」を掲げる継続的的事业として、若い層にも目を向けて取り組むべきである。アウトリーチの手法にて学校内におけるミニコンサートと、ネオクラシックコンサートを結ぶ。高い芸術にふれ、心豊かに生きる機会を若い世代にもつことこそ、瑞穂市が活性化される未来につながると思います。岐阜県交響楽団は年を経てから依頼すれば良い。</p>
長 屋 委 員	<p>やはり生演奏は良いですね。アンケートでわかるように、参加者の86%が40代以上でしたので、年齢が高い人向けの選曲だったかもしれません。若い人たちには早い時期から親しんでもらい、大人になっても興味を持ち続けてもらう取組が必要です。声楽家が小中学校を訪ねて鑑賞する機会をもてば、クラシックが好きな子が増えるのではないかと思います。</p>
松 野 委 員	<p>低予算で参加者負担も少なく、気軽にクラシック音楽を聴くには、岐阜県交響楽団は適任だし、地域で育てていくことも重要で意義あることだと思う。しかしたまには本格的な楽団の演奏を聴きたい。5年か10年に一度はNHK交響楽団や名古屋フィルハーモニーを生で聴きたい。</p>
宇 野 委 員	<p>アンケートの結果から「若い年代にも興味もてる内容にする」課題が明らかになりました。②のオペラが実現し、子どもたちがどのように感じるかが楽しみで、感想を聞いてほしいです。とにかく本格的なホールをもつ市であるからには、市民の誰もが高い芸術に触れられることを願っています。</p>
広 瀬 委 員	<p>アンケート結果をもとに、若年層の入場者比率を上げるよう検討願いたい。</p>

辻 委 員	息子と一緒に鑑賞した。しかし息子にとっては知らない曲ばかりで「もう行きたくない」という感想だった。だから、小中学生にも聴き馴染みのある曲を演奏してもらうことが一番大切である。
-------------	---

<事務局より>

- ・来年度のネオクラシックコンサートは、声楽家が小中学校を訪問しミニコンサートを行った上で本公演を行う「フィガロの結婚合唱団」に依頼するように進めていきます。

議事（3）第三次瑞穂市子どもの読書活動推進計画について（報告）

井 深 委 員 長	<p>第二次計画の課題をとらえて第三次計画に生かされている。また骨子はわかりやすく、大事にしたいことが示されている。以下、今後の具体的な取組を提案する。</p> <p>○積極的な啓発・広報活動の推進</p> <p>市民の間に「読書のまち みずほ」が広まっていくよう他団体（学校教育課・青少年育成市民会議・自治会）と啓発・広報活動を共有していく。</p> <p>○財政上の必要な措置</p> <p>今年度 15 歳以下の子どもに 2,000 円の図書カードが配布され、その効果は非常に大きかったと聞いている。「読書のまち みずほ」を重点にしている間は、継続して予算化してもらいたい。また市図書館への電子書籍を導入することが望まれる。</p> <p>○アンケートの結果より</p> <p>「読書のまち みずほ」を継続して取り組んできた成果は確実に見られる。今後は「家読」の時間をいかに増やしていくか、また全く本を読まない中学生（15.9%）をどのように指導していくのが課題である。</p>
山 本 委 員	<p>小中学校の図書システムの統一及び読書通帳にする機器の導入は、学校現場としては切望しています。ブックスタートから幼保・小・中と累積して活用できる読書通帳のシステムが整うとよいですね。</p>
上 野 委 員	<p>NPO 関連民間放課後児童クラブへ毎月本を貸し出してもらい、感謝しています。子どもたちは本を何度も読み返したり、本を見て工作をしたり、折り紙を楽しんだりしています。1日に30分以上は本に親しんでいます。</p>
長 屋 委 員	<p>ブックスタートの重要さは浸透してきていますが、もっと読み聞かせの重要性を保護者に認識してもらう努力が必要なのではなのでは。幼児の頃からの読み聞かせが小・中・高・大学生までの学力に影響するとの報告があります。</p> <p>読書が好きな小中学生は学校の図書室を利用した読書習慣がついていることがうれしいです。一方で1か月に1冊も本を読まない子、本が嫌いな子がいるのも事実で、この子どもたちを本好きにするための取組を学校間で情報共有することも大事だと思います。</p> <p>大月の多目的広場と連携して図書館分館の親子利用を増やす努力が必要になってきます。それには、子どもたちが興味のあるようなイベントをすると良いと思います。</p>
松 野 委 員	<p>細部にわたるよくできた計画だと思います。</p>

宇野委員	子どもの読書の大切さを家庭・学校・図書館等で認識し、さらに積極的に推進されてきていると感じます。その中で次につなげる計画であり、それぞれの立場の取組がわかりやすく計画されていると思います。
------	--

<事務局より>

- ・第三次瑞穂市子どもの読書活動推進計画にもとづき、市民に「読書のまち みずほ」を周知し、乳幼児に読み聞かせをする割合を増やし、小中学生の不読者の割合を減らし、市図書館の利用する人の割合を増やすための取組をしていきます。

議事（４）令和４年度社会教育の方針と重点について（意見聴取）

井深委員長	今年度の課題を明らかにして、来年度の方針や重点が決まるものと思われる。
山本委員	コロナ禍の対応や工夫が今後の学び続ける人材の広がりにつながることが期待します。
宇野委員	<学習>の中に「幅広い年代にIT教育の推進」を考えていただきたいです。（我々高齢者も時代についていけるようにしたいので、気軽に学べる場があればと思います。）

議事（５）令和４年度瑞穂市文化講演会について（意見聴取）

井深委員長	令和４年度は、できる限り地元の人（瑞穂市・岐阜県に縁がある人）、そして多くの人に馴染みのある人が望ましい。
山本委員	齋藤孝氏の講演は一度拝聴させていただきましたが、日本語の大切さについて学ぶことができました。大変興味があります。
上野委員	齋藤孝氏は子育て世代の親が興味をもてるし、川島隆太氏は自分の生き方として興味があるところです。どちらのかたも良い講師で、期待がもてます。
松野委員	二人ともすばらしい方です。個人的には川島隆太氏の講演を聞きたいですが、人を集めるなら齋藤氏の方が分があるかも。以前川島氏の講演に参加したことがあるが、よかったです。
宇野委員	個人的には川島さんの演題に興味がありますが、齋藤さんのテレビでのイメージからすると、わかりやすい話が聞けるように思います。
広瀬委員	個人的には齋藤孝さんが良いと思います。

<事務局より>

- ・齋藤氏、川島氏ともに市民に読書の良さを伝えていただける講師であるため、市の予算、講師のスケジュール等を検討し、決定していきます。